



## 2026年9月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年5月8日

上場会社名 株式会社イルグルム 上場取引所 東  
 コード番号 3690 URL <https://www.yrglm.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員CEO (氏名) 岩田 進  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員CAO (氏名) 栢木 秀樹 TEL 06(4795)7500  
 半期報告書提出予定日 2026年5月11日 配当支払開始予定日 -  
 決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

### 1. 2026年9月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年10月1日～2026年3月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年9月期中間期	2,886	21.2	285	299.8	281	332.8	203	658.7
2025年9月期中間期	2,382	28.7	71	△33.1	65	△39.5	26	△49.1

(注) 包括利益 2026年9月期中間期 224百万円 (-%) 2025年9月期中間期 19百万円 (△63.9%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年9月期中間期	32.74	—
2025年9月期中間期	4.34	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2026年9月期中間期	5,532	2,384	34.1	302.54
2025年9月期	3,205	1,684	51.8	267.60

(参考) 自己資本 2026年9月期中間期 1,888百万円 2025年9月期 1,658百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年9月期	—	0.00	—	7.90	7.90
2026年9月期	—	0.00	—	—	—
2026年9月期（予想）	—	—	—	8.00	8.00

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2. 2026年9月期期末配当（予想）の内訳 普通配当 7円00銭 スタンダード市場上場記念配当 1円00銭

3. 当社は定款において第2四半期末日及び期末日を配当基準日と定めており、配当方針としては期末配当の年1回を基本的な方針と定めております。

### 3. 2026年9月期の連結業績予想（2025年10月1日～2026年9月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,950	20.6	320	14.7	300	7.3	200	—	31.94

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

2. 業績予想の修正については、本日（2026年5月8日）公表しました「2026年9月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：有

新規 1社 (社名) シルバーエッグ・テクノロジー株式会社、除外 1社 (社名) KIMEI GLOBAL Co., Ltd

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2026年9月期中間期	6,372,415株	2025年9月期	6,372,415株
-------------	------------	----------	------------

② 期末自己株式数

2026年9月期中間期	129,947株	2025年9月期	172,835株
-------------	----------	----------	----------

③ 期中平均株式数 (中間期)

2026年9月期中間期	6,213,339株	2025年9月期中間期	6,174,080株
-------------	------------	-------------	------------

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当中間期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当中間期の財政状態の概況 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 中間連結貸借対照表 .....	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 .....	7
中間連結損益計算書 .....	7
中間連結包括利益計算書 .....	8
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(セグメント情報等の注記) .....	11
(重要な後発事象の注記) .....	12

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善や、インバウンド需要の継続的な拡大等に支えられ、緩やかな回復基調で推移いたしました。しかしながら、高止まりする物価や人件費等のコスト上昇に加え、為替・金融資本市場の変動、米国の政策動向、さらには中東・ウクライナ情勢の長期化をはじめとする地政学リスクの高まり等により、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

一方、当社グループが事業を展開している国内のインターネット広告市場については、社会のデジタル化を背景に2025年のインターネット広告費は前年比110.8%の4兆459億円(株電通「2025年日本の広告費」)と継続的に高い成長率を維持しており、総広告費に占める割合も50.2%まで拡大しております。

また、当社グループのもう一つの対面市場であるEC市場については、2024年国内BtoC-EC市場規模は前年比105.1%の26.1兆円となりました。分野別では、物販系分野に関して前年比103.7%と伸長しており、物販系分野におけるEC化率についてもBtoC-ECで9.8%(前年比0.4ポイント増)と伸長しております。BtoB-EC市場におけるEC化も43.1%(同3.1ポイント増)と増加傾向にあり(いずれも経済産業省「令和6年度電子商取引に関する市場調査報告書」)、国内のEC市場規模拡大は継続しております。

このような事業環境の下、当社グループは、データとテクノロジーによって世界中の企業によるマーケティング活動を支援し、売り手と買い手の幸せをつくる企業を目指して事業展開を行っております。当中間連結会計期間においては、2026年1月14日に連結子会社化したシルバーエッグ・テクノロジー(株)による業績貢献及び両セグメントの経費削減により増収増益となり、売上高2,886,666千円(前年同期比21.2%増)、営業利益285,446千円(同299.8%増)、経常利益281,430千円(同332.8%増)、親会社株主に帰属する中間純利益203,454千円(同658.7%増)となりました。

セグメントごとの経営成績は以下のとおりとなりました。

なお、当中間連結会計期間より、事業戦略をより明確に表現するため、セグメント名称を「マーケティングDX支援事業」から「マーケティングAI事業」、「コマース支援事業」から「コマースAI事業」へそれぞれ変更しております。当該変更は名称変更のみであり、セグメント情報に与える影響はありません。

#### (マーケティングAI事業)

当事業は、インターネットにおける消費者行動を横断的に測定し、マーケティングに活用するためのクラウドサービス等を提供する事業であります。当事業では、2024年9月期を開始年度とする中期経営方針「VISION2027」の戦略として、広告効果測定におけるクロスセルを強化し、新たなSaaSの提供開始・人的支援サービスの強化後、これら3つを掛け合わせたクロスセルを強化し、2027年9月期までに過去最高件数を更新することを目指しております。提供しているサービスは広告効果測定プラットフォーム「アドエビス」を主力サービスとし、マーケティング・キャンペーン・マネジメント・プラットフォーム「アドエビスキャンペーンマネージャー」、分析レポート自動作成サービス「アドレポ」を提供する広告代理店向けプラットフォームビジネスやインキュベーション領域とし新サービスの開発にも取り組んでおります。

当中間連結会計期間においては、マーケティング・キャンペーン・マネジメント・プラットフォーム「アドエビスキャンペーンマネージャー」において、2つのAIエージェント「課題発見エージェント」「施策立案エージェント」を搭載したβ版の提供を開始いたしました。今後は、要因分析やレポート、効果検証など、マーケティング業務全体を支援するエージェントを正式版に向けて改良と拡充していき、AIと人が協働することで、より速く・賢く意思決定できる「次世代のマーケティング基盤」の実現に向け、研究開発を進めてまいります。

また、主力サービスである「アドエビス」の売上高の伸長等により、当中間連結会計期間の売上高は1,504,758千円(前年同期比3.2%増)、セグメント利益は163,215千円(同21.2%増)と増収増益となりました。

## (コマースAI事業)

当事業は、EC事業者の多様な商習慣や事業形態に寄り添う「業務適応型コマース」を軸とし、EC構築のためのオープンプラットフォーム「EC-CUBE」を中心に、集客・運用・物流に至るまで一気通貫で課題解決を支援する事業であります。「EC-CUBE」はプレミアムモデルのオープンソース・パッケージとして提供しており、連携する各種サービス(決済代行等)の提供事業者から手数料収入を得るエコシステムを構築しております。

一方、EC構築においては、事業成長に伴う変化に柔軟に対応できる基盤として大規模ECサイトの構築を推進しております。さらに、「EC-CUBE Enterprise」として、高アクセスに耐えうるインフラ基盤・モール型EC・多言語対応等の機能をパッケージ化し、企業の独自業務に高度に適応するコストパフォーマンスに優れた高可用性システムとして大型案件の獲得に取り組んでおります。

また、コマースAI事業では、ECサイトのオペレーションマネジメント事業としてフルフィルメントサービスの提供を行っております。

当中間連結会計期間の第2四半期より、AIを活用したレコメンド技術及びそれをベースとしたAIマーケティングサービス事業を展開しているシルバーエッグ・テクノロジー(株)を新たに連結対象に加えております。事業ノウハウやアセットを相互共有・活用し、顧客の課題解決を統合的に支援し、更なる提供価値の向上を目指してまいります。

この結果、当中間連結会計期間の売上高は1,382,529千円(前年同期比48.9%増)、セグメント利益は122,231千円(前年同期は63,237千円のセグメント損失)となりました。シルバーエッグ・テクノロジー(株)の業績貢献及びEC構築における開発案件の増加やEC運用における前期獲得新規顧客の売上寄与等により増収黒字転換となりました。

なお、新規EC構築案件の受注状況につきましては、受注高は244,463千円(前年同期比17.9%減)となり、受注残高は409,551千円(前年同期末比109.5%増)となりました。

## (2) 当中間期の財政状態の概況

## ① 財政状態

## (資産)

当中間連結会計期間末における流動資産は4,119,371千円となり、前連結会計年度末に比べ1,717,604千円増加いたしました。これは主に連結子会社の取得等により、現金及び預金が1,263,254千円、受取手形及び売掛金が176,488千円それぞれ増加したことや、コマースAI事業のEC構築事業の開発案件の進捗に伴い契約資産が103,219千円増加したこと、前払費用が115,192千円増加したこと等によるものであります。

また、固定資産は1,413,420千円となり、前連結会計年度末に比べ610,095千円増加いたしました。これは主に連結子会社の取得等により、のれんが563,137千円、繰延税金資産が21,173千円それぞれ増加したことによるものであります。

この結果、総資産は5,532,791千円となり、前連結会計年度末に比べ2,327,699千円増加いたしました。

## (負債)

当中間連結会計期間末における流動負債は1,341,094千円となり、前連結会計年度末に比べ237,120千円増加いたしました。これは主にコマースAI事業のEC構築事業の開発案件における中間金の入金により契約負債が160,506千円増加したことや、未払金が65,285千円増加したことによるものであります。

また、固定負債は1,807,119千円となり、前連結会計年度末に比べ1,390,804千円増加いたしました。これはシルバーエッグ・テクノロジー(株)の株式取得資金を銀行借入により調達したことによって、長期借入金が1,398,544千円増加したことや、子会社事務所の賃貸借契約の終了により資産除去債務が7,740千円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は3,148,213千円となり、前連結会計年度末に比べ1,627,924千円増加いたしました。

## (純資産)

当中間連結会計期間末における純資産は2,384,577千円となり、前連結会計年度末に比べ699,775千円増加いたしました。これは主に親会社株主に帰属する中間純利益203,454千円の計上、連結子会社の取得等により、非支配株主持分が470,156千円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は34.1%(前連結会計年度末は51.8%)となりました。

## ② キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ1,260,037千円増加(前年同期は109,507千円減少)し、2,721,707千円となりました。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローについては、277,010千円の収入(前年同期は192,923千円の収入)となりました。これは主に、税金等調整前中間純利益285,016千円(前年同期は65,028千円)の計上、コマースAI事業のEC構築事業の開発案件における中間金の入金により契約負債の増加160,630千円(前年同期は6,335千円の増加)等の増加要因によるものですが、一方でコマースAI事業のEC構築事業の開発案件の進捗に伴い契約資産の増加103,219千円(前年同期は31,948千円の減少)及び前払費用の増加57,219千円(前年同期は4,803千円の減少)等の減少要因により一部相殺されております。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローについては、367,109千円の支出(前年同期は92,042千円の支出)となりました。これは主に、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出262,590千円(前年同期は該当事項なし)や、無形固定資産の取得による支出77,620千円(前年同期は82,709千円の支出)等によるものであります。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローについては、1,348,061千円の収入(前年同期は209,890千円の支出)となりました。これは主に、長期借入れによる収入1,435,000千円(前年同期は該当事項なし)や、配当金の支払額48,960千円(前年同期は47,461千円の支出)、長期借入金の返済による支出37,878千円(前年同期は111,188千円の支出)等によるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

## (通期連結業績予想の修正について)

最近の業績動向を踏まえ、現時点で入手可能な情報に基づき、通期の連結業績予想を以下のとおりといたします。

	金額	対前期増減率	(参考) 前期連結実績
	百万円	%	百万円
売上高	5,950	20.6	4,934
営業利益	320	14.7	278
経常利益	300	7.3	279
親会社株主に帰属する当期純利益	200	—	△142

2026年9月期上期連結業績は、第2四半期からシルバーエッグ・テクノロジー㈱(以下、シルバーエッグといいます)の連結開始及び既存事業の成長により、売上高は2,886百万円(前年同期比21.2%)、営業利益は285百万円(同4.0倍)に拡大いたしました。

通期連結業績予想については、シルバーエッグの連結開始等に伴い2026年2月に期初予想を修正しておりますが、直近の業績動向を踏まえ、再修正することといたしました。

売上高につきましては、マーケティングAI事業は売上比率の大きい「アドエビス」の堅調な推移等により通期計画を若干上回る見込みである一方、コマースAI事業は㈱イーシーキューブにおけるEC構築の受注苦戦を主因に通期計画を下回る見込みとなり、連結としては前回予想から200百万円の下修正となります。

営業利益につきましては、コマースAI事業は㈱イーシーキューブが受注苦戦の影響により下振れるものの、ルビー・グループ㈱の上期利益が想定を超過した他、シルバーエッグのM&A影響額の修正等により通期計画を上回る見込みとなり、マーケティングAI事業においても「アドエビス」堅調等により通期計画を若干上回る見込みであるため、連結としては前回予想から60百万円の上修正となります。

また、経常利益、親会社に帰属する当期純利益につきましても、前回予想を上回る見込みとなったことから上記のとおりそれぞれ上方修正いたします。

## 2. 中間連結財務諸表及び主な注記

## (1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年9月30日)	当中間連結会計期間 (2026年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,558,322	2,821,576
受取手形及び売掛金	604,817	781,305
契約資産	115,680	218,900
仕掛品	3,153	57,100
前払費用	104,253	219,445
未収入金	9,110	13,630
その他	8,889	11,920
貸倒引当金	△2,461	△4,509
流動資産合計	2,401,766	4,119,371
固定資産		
有形固定資産		
建物		
建物	102,881	112,095
減価償却累計額	△70,681	△69,117
建物(純額)	32,199	42,978
工具、器具及び備品		
工具、器具及び備品	260,389	290,110
減価償却累計額	△222,966	△247,217
工具、器具及び備品(純額)	37,422	42,892
有形固定資産合計	69,622	85,871
無形固定資産		
のれん		
のれん	57,869	621,006
ソフトウェア		
ソフトウェア	342,960	341,860
ソフトウェア仮勘定	44,319	44,057
その他	11,788	11,087
無形固定資産合計	456,937	1,018,011
投資その他の資産		
投資有価証券		
投資有価証券	54,677	54,562
長期前払費用		
長期前払費用	55,476	57,693
繰延税金資産		
繰延税金資産	44,994	66,168
差入保証金		
差入保証金	120,973	130,525
その他	2,716	2,500
貸倒引当金	△2,072	△1,912
投資その他の資産合計	276,765	309,536
固定資産合計	803,324	1,413,420
資産合計	3,205,091	5,532,791

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年9月30日)	当中間連結会計期間 (2026年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	137,914	127,090
短期借入金	250,000	250,000
1年内返済予定の長期借入金	75,377	73,955
未払金	315,018	380,303
未払法人税等	88,548	84,399
預り金	59,706	70,008
契約負債	112,143	272,650
賞与引当金	55,330	71,417
株主優待引当金	9,760	10,965
その他	175	304
流動負債合計	1,103,974	1,341,094
固定負債		
長期借入金	354,036	1,752,580
資産除去債務	62,279	54,539
固定負債合計	416,315	1,807,119
負債合計	1,520,289	3,148,213
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	318,065	318,065
資本剰余金	354,387	408,357
利益剰余金	1,105,859	1,237,361
自己株式	△130,275	△97,134
株主資本合計	1,648,038	1,866,650
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	10,952	21,959
その他の包括利益累計額合計	10,952	21,959
非支配株主持分	25,811	495,968
純資産合計	1,684,802	2,384,577
負債純資産合計	3,205,091	5,532,791

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書  
(中間連結損益計算書)

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年3月31日)
売上高	2,382,354	2,886,666
売上原価	1,160,017	1,281,835
売上総利益	1,222,336	1,604,830
販売費及び一般管理費	1,150,937	1,319,383
営業利益	71,399	285,446
営業外収益		
受取利息及び配当金	4,306	6,417
持分法による投資利益	1,033	—
投資有価証券評価益	—	2,307
還付消費税等	2,346	31
その他	1,556	1,759
営業外収益合計	9,243	10,515
営業外費用		
支払利息	3,650	7,595
為替差損	1,671	3,225
投資有価証券評価損	3,233	—
持分法による投資損失	—	2,423
固定資産除却損	6,998	0
その他	60	1,288
営業外費用合計	15,613	14,532
経常利益	65,028	281,430
特別利益		
新株予約権戻入益	—	16,374
特別利益合計	—	16,374
特別損失		
減損損失	—	12,788
特別損失合計	—	12,788
税金等調整前中間純利益	65,028	285,016
法人税、住民税及び事業税	44,932	75,184
法人税等調整額	4,393	△3,908
法人税等合計	49,326	71,275
中間純利益	15,702	213,740
非支配株主に帰属する中間純利益又は非支配株主に帰属する 中間純損失(△)	△11,115	10,286
親会社株主に帰属する中間純利益	26,817	203,454

## (中間連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年3月31日)
中間純利益	15,702	213,740
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	3,694	11,071
その他の包括利益合計	3,694	11,071
中間包括利益	19,396	224,811
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	29,697	214,286
非支配株主に係る中間包括利益	△10,301	10,525

## (3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前中間純利益	65,028	285,016
減価償却費	95,323	89,346
のれん償却額	59,584	34,472
賞与引当金の増減額(△は減少)	16,118	15,742
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△1,018	1,733
受取利息及び受取配当金	△4,306	△6,417
株主優待引当金の増減額(△は減少)	780	1,205
支払利息	3,650	7,595
固定資産除却損	6,998	0
受注損失引当金の増減額(△は減少)	△258	—
減損損失	—	12,788
新株予約権戻入益	—	△16,374
持分法による投資損益(△は益)	△1,033	2,423
仕入債務の増減額(△は減少)	29,852	△10,824
投資有価証券評価損益(△は益)	3,233	△2,307
売上債権の増減額(△は増加)	△125,263	△32,898
契約資産の増減額(△は増加)	31,948	△103,219
契約負債の増減額(△は減少)	6,335	160,630
前払費用の増減額(△は増加)	4,803	△57,219
長期前払費用の増減額(△は増加)	3,731	8,554
未払金の増減額(△は減少)	△147,804	23,176
預り金の増減額(△は減少)	10,755	953
棚卸資産の増減額(△は増加)	5,911	△53,807
未収入金の増減額(△は増加)	159,944	707
その他	760	1,042
小計	225,076	362,318
利息及び配当金の受取額	4,225	5,999
利息の支払額	△3,734	△7,740
法人税等の支払額	△32,643	△83,567
営業活動によるキャッシュ・フロー	192,923	277,010
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の増減額(△は増加)	3,596	3,996
有形固定資産の取得による支出	△12,719	△10,068
無形固定資産の取得による支出	△82,709	△77,620
資産除去債務の履行による支出	—	△7,740
差入保証金の差入による支出	△185	—
差入保証金の回収による収入	—	2,812
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△262,590
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	—	△15,953
その他	△24	55
投資活動によるキャッシュ・フロー	△92,042	△367,109
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	—	1,435,000
長期借入金の返済による支出	△111,188	△37,878
自己株式の取得による支出	—	△100
配当金の支払額	△47,461	△48,960
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△51,240	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△209,890	1,348,061
現金及び現金同等物に係る換算差額	△498	2,075
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△109,507	1,260,037
現金及び現金同等物の期首残高	1,324,920	1,461,669
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,215,413	2,721,707

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

2026年1月16日開催の取締役会決議に基づき、譲渡制限付株式報酬として自己株式を44,500株処分いたしました。この結果、当中間連結会計期間において利益剰余金が6,764千円減少し、自己株式が33,241千円減少しております。

(セグメント情報等の注記)

## 【セグメント情報】

前中間連結会計期間(自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	中間連結 損益計算書 計上額
	マーケティング AI事業	コマースAI事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	1,454,621	927,732	2,382,354	—	2,382,354
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	1,454,621	927,732	2,382,354	—	2,382,354
セグメント間の内部売上高又は振替高	2,916	536	3,453	△3,453	—
計	1,457,538	928,269	2,385,807	△3,453	2,382,354
セグメント利益又は損失(△)	134,636	△63,237	71,399	—	71,399

(注) セグメント利益又は損失の合計額は、中間期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当中間連結会計期間(自 2025年10月1日 至 2026年3月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	中間連結 損益計算書 計上額
	マーケティング AI事業	コマースAI事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	1,504,308	1,382,357	2,886,666	—	2,886,666
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	1,504,308	1,382,357	2,886,666	—	2,886,666
セグメント間の内部売上高又は振替高	450	171	621	△621	—
計	1,504,758	1,382,529	2,887,288	△621	2,886,666
セグメント利益	163,215	122,231	285,446	—	285,446

(注) セグメント利益の合計額は、中間期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

## 2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

当中間連結会計期間において、シルバーエッグ・テクノロジー(株)の株式を取得し、新たに連結の範囲に含めております。これにより前連結会計年度末の末日に比べて、当中間連結会計期間の報告セグメントの資産の金額は、「コマースAI事業」セグメントにおいて1,430,988千円増加しております。

## 3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当中間連結会計期間より、事業戦略をより明確に表現するため、セグメント名称を「マーケティングDX支援事業」から「マーケティングAI事業」、「コマース支援事業」から「コマースAI事業」へそれぞれ変更しております。当該変更は名称変更のみであり、セグメント情報に与える影響はありません。なお、前中間連結会計期間のセグメント情報は、上記の変更を踏まえて作成・記載しております。

## 4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「マーケティングAI事業」において、アドフープ事業の終了を決定したことにより、当該機能に係るソフトウェアについて減損処理を行い、減損損失12,788千円を計上しております。

また、「コマースAI事業」において、シルバーエッグ・テクノロジー(株)の株式を取得したことに伴い、のれんが597,609千円増加しております。なお、のれんの金額は取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

(重要な後発事象の注記)

(多額の資金の借入について)

当社は、2026年3月16日開催の取締役会で、2025年11月26日付で(株)みずほ銀行と締結しました「コミットメント期間付タームローン契約」を利用して、資金の借入を行うことを決議いたしました。

## (1) コミットメント期間付きタームローン契約締結の理由

シルバーエッグ・テクノロジー(株)の株式取得資金に充当することを目的としております。

## (2) 契約の概要

① 借入先の名称	みずほ銀行
② 借入限度枠	1,680百万円
③ 借入金利	基準金利＋スプレッド
④ 契約日	2025年11月26日
⑤ コミットメント期間	2025年11月28日 ～ 2026年11月30日
⑥ タームローン期間	2025年11月30日 ～ 2033年11月30日
⑦ 担保又は保証の内容	該当事項なし
⑧財務上の特約の内容	i) 各連結会計年度の決算期の末日における連結貸借対照表における純資産の部の金額を正の値とすること。 ii) 各連結会計年度の決算期における連結損益計算書に示される経常利益が、2期連続して損失とならないようにすること。 iii) 各連結会計年度の決算期における連結貸借対照表を用いて計算されるネットレバレッジレシオを5以下の値に維持すること。

(注) 1. 本契約は、1,680百万円のコミットメント期間が付されたタームローン契約であり、当該コミットメント期間内において当社が借入を求めた場合に個別の貸付実行が行われることとなります。また、2026年11月30日における借入残高に係る返済期間として、タームローン期間を設けております。

2. ネットレバレッジレシオ＝純有利子負債／EBITDA

3. 純有利子負債＝有利子負債－現預金

4. EBITDA＝営業損益＋減価償却費

## (3) 借入の概要

① 借入総額	245百万円
② 借入金利	基準金利＋スプレッド
③ 返済方法	分割返済
④ 借入日	2026年4月3日
⑤ 借入期間	2026年4月3日 ～ 2033年11月30日

(子会社株式の追加取得について)

当社は、2026年3月16日開催の取締役会で、連結子会社であるシルバーエッグ・テクノロジー(株)の株式を追加取得することを決議いたしました。

#### 1. 取引の概要

##### (1) 結合当事企業の名称及びその事業の内容

結合当事企業の名称 シルバーエッグ・テクノロジー(株)

事業の内容 AIを活用したレコメンド技術及びそれをベースとしたAIマーケティングサービス事業

##### (2) 企業結合を行う主な理由

相互の経営資源・ノウハウの共有・活用や迅速な意思決定を行い、両者のシナジーを最大化することを目的としております。

##### (3) 企業結合日

2026年4月1日(みなし取得日)

##### (4) 企業結合の法的形式

非支配株主からの株式取得

##### (5) 結合後の企業の名称

名称に変更はありません。

#### 2. 実施する会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 2019年1月16日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 2019年1月16日)に基づき、共通支配下の取引等のうち、非支配株主との取引として処理しております。

#### 3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	353,276千円
取得原価		353,276千円